

まちづくりへのデータ利活用の検証

目的・概要

目的

スマートシティへの転換に向けた取り組みの一つとして、人流や交通量など、まちづくりへの活用が期待できるデータが得られるサービスを先行的に実証導入し、今後の取り組みの検討に活用をする。

概要

以下の4種類のデータをもとに分析・活用方法の検証を実施。

AIカメラによって測定した
人流データ

駐車場シェアリングサービスの
サービス提供・利用データ

携帯電話基地局情報をもとにした
人流データ

交通量データ

データ取得方法

	詳細	主な取得データ
AIカメラ	AI画像解析端末をカメラに取り付け、その場で解析を行い統計データとして情報を取り扱うことで、個人情報に配慮した形でデータを取得。	- 人流データ - 滞留データ
携帯電話 位置情報サービス	携帯電話ネットワークのしくみを使用して提供されるサービスを活用し、市内全域における人流量、来訪元などの情報を入手し、地域の賑わいの分析を実施。	- 市内人流データ - 来訪元データ
駐車場 シェアリングサービス	駐車場シェアリングサービス「特P」を活用した渋滞緩和、駐車場不足の対策としてサービス活用を行いながら、サービス利用データの分析を実施。	駐車場利用状況データ
交通量情報	イベント時における市内の交通渋滞データを取得し、渋滞・混雑状況の把握を実施。	交通渋滞データ

桑名水郷花火大会での検証

桑名水郷花火大会

伊勢大橋完成記念として始まった伝統のある花火大会で
例年、市内外から多くの来訪がある

- ・ 開催日時 2024年7月27日（土曜日）
- ・ 開催場所 揖斐川 中州



検証内容① 人流

AIカメラと携帯電話位置情報サービスから
賑わい状況の分析を実施



花火大会当日の人流総数、来
訪元の傾向などを、平時と比較
し、定量情報として可視化

検証内容② 交通

駐車場シェアリングサービスの利用状況と、
交通渋滞データから、渋滞緩和施策の効
果を分析



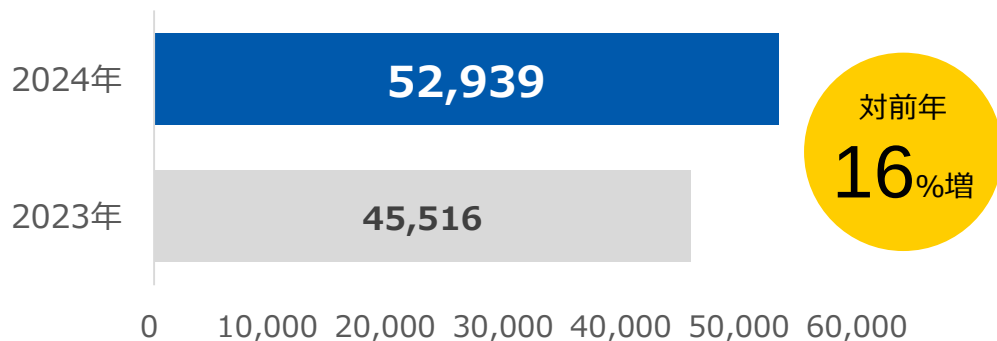
駐車場シェアリングサービスによ
る駐車場確保と、一定の渋滞
緩和の効果を確認

定量データから見えた課題

「人流」「交通」ともに共通する課題として、花火大会の「開始前」と比較して「終了後」の混雑が課題という点が、定量データ分析からも具体的な時間帯とともに確認された。

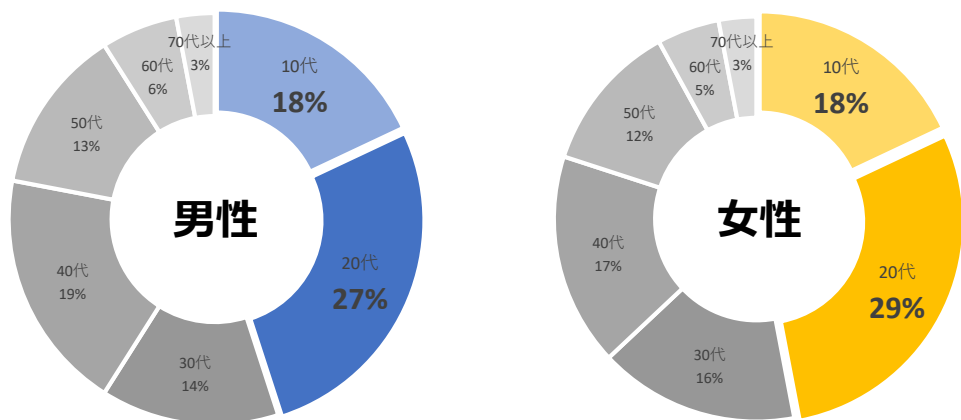
参考：水郷花火大会の実データ（一例）

来場者数



来場者数全体においては前年度より16%増加しており、地域の賑わいが向上している点を確認。

属性



男女ともに、10代、20代で半数近い構成となっており、若者に桑名市に来訪してもらうきっかけとなっていると考えられる。

今後の取り組み

総括

- 事例に挙げた水郷花火大会においては、デジタルサービス（特P）を実際に利用いただくとともに、賑わいの可視化とそこから見えてくる課題を把握することができた。
- 今後、地域の持つその他の課題においても、データ活用による検証・施策立案の可能性を探るとともに、最適なデータ利活用方法の検討を進めていく。
- また、将来的には地域全体で「賑わい」に関するデータが有効活用できる環境の構築も視野にいたれた取り組みを検討していく。

地域の賑わい創出



混雑

今回の実証で得られたデータ・知見も活用しながら、「地域の賑わい創出」と「混雑緩和」の両立につながる施策の検討を進め、住んでいる人・訪れる人がともに楽しめる「まちづくり」を推進していく。